大正九年十月二十四日 第三種郵便物認可　昭和十二年一月四日

新京日日新聞

夕刊　一月四日

本紙定價 一部五錢 一ケ月壹圓 郵稅一ケ月拾五錢
廣告料金 普通一行壹圓五拾錢 特別一行貳圓五拾錢
發行所 新京永樂町四ノ一 新京日日新聞社
電話 編輯局專用(3)三二五 營業局專用(3)三三〇〇
發行人 河 榮忠　編輯人 杉本勇　印刷人 水越內之介

陛下出御のもと 政始の御儀
神宮の諸祭等滯りなく終る

【東京國通】昭和十二年政始の御儀は四日午前十時より宮中東一の間において天皇陛下出御の下にいと嚴肅に行はせられた、廣田首相以下各國務大臣、松平宮相平沼樞府議長等は通常禮裝に威儀を正し午前九時半頃相前後して參內、一旦東二の間に控へ同四十分御儀の間に參進、同十時天皇陛下には陸軍御通常禮裝を召され大勳位副章御佩用、松平武部長官前行、湯淺內府、百武侍從長、宇佐美武官長以下側近者を從へさせられて親臨、諸員最敬禮裡に玉座に着御あらせられた、かくて藤沼書記官長、白根宮內次官等扉內に候し先づ廣田首相は陛下の御前に進み恭々しく神宮の諸祭典其の他滯りなく遂行せられたる旨を奏上して退下、次で松平宮相は御前に進み皇室の御事を奏し奉り、こゝに御意義深き政始の儀を終へさせられて陛下には入御遊ばされた

元始祭

【東京國通】新春初の大祭たる元始祭の御儀は三日宮中三殿において天皇陛下御親祭の下にいとも嚴かに行はせられた、この朝秩父宮同妃、高松宮同妃、三笠宮各殿下ならびに各皇族方を始め奉り廣田首相以下各國務大臣、平沼樞府議長その他勅任待遇以下文武官等大禮服正裝にて參列、神樂歌の裡に開扉、神饌、幣物を供し、三條掌典長祝辭を奏し奉れば午前十時天皇陛下には黃櫨染御袍の御束帶を召され賢所大前に御參進內掌典奉仕の莊重なる御鈴の儀の裡に恭々しく御拜禮御告文を奏せられ、次で皇后陛下、皇太后陛下の御拜あり、皇族方御拜、諸員拜禮して御儀を終へさせられた 皇靈殿神殿におかせられても同樣御親祭あらせられた

標準貸付、預金利率 全面的に大巾利下げ
興銀の設立で一月四日から すべて國幣建に變更

滿洲興業銀行にては同行設立の主旨並に內地に於ける低金利の狀勢に鑑み、標準貸付利率並に預金利率を左の通り定め本年一月四日より實施することとなつた

一、標準貸付利率
- 國債證券擔保貸付　日步一錢三厘
- 優良なる手形割引　日步一錢五厘以上
- 確實なる證券擔保貸付　日步一錢五厘以上
- 長期貸付　年七分以上

二、預金利率
- 定期預金
  - 滿鐵社線沿線及び哈爾濱 吉林所在各店　年三分八厘
  - 其の他各店　年四分
- 當座預金　日步二厘
- 特別當座預金　日步六厘
- 通知預金　日步七厘

右の中貸付利率は一般取引先に對する確實優良なる貸付最低步合を示すものであるが、其の實行に當つては、滿洲中央銀行とも協調を保ち高率なるものは漸次引下げ、滿洲國內に於ける金利の低下を圖り、以て產業の助長、財界の發展に資せんとするものである、次に預金利率に就ては關東州內と滿洲國內とに於ける從來の區別を廢し、大體滿洲國內に於ける從來の鮮銀の金圓預金利率迄引下げたるものである、尙今後滿洲國內に於ける貸付預金共總て國幣による方針である

中央銀行利下 一月四日より實施

滿洲中央銀行では常に金融界の情勢に鑑み實情に即して漸進的に金利の低下を誘導すると共に、その普遍化に努めて來たが、刻下內外の情勢は更に一層金利の低下を促進し、もつて益々資金の流通を圓滑ならしめ國民經濟の發達に裨益するの緊要なることを認め左の通り利率の引下げを實行し本年一月四日よりこれを實施することゝなつた

一、預金利率(百圓に付日步)

	改正利率	現行利率(昨年五月一日改正)
當座預金	二厘	三厘
特別當座預金	六厘	七厘
通知預金	七厘	九厘
定期預金(六ケ月、一年共) ー新京、奉天、哈爾濱、安東、營口、大連並に滿鐵沿線都市ー	年三分八厘	四分二厘
同 七厘 ー其他ー	年四分	四分

二、貸出利率(百圓に付日步)

	改正利率	現行利率
當座貸越	一分八厘以上	二分以上
金銀擔保	一分五厘以上	一分七厘以上
商品擔保	一分八厘以上	二分以上
國債擔保	一分三厘以上	一分八厘以上
證券擔保	一分五厘以上	二分以上
押	一分八厘以上	二分以上
不動產擔保	一分八厘以上	二分以上
手形割引	一分五厘以上	一分六厘以上
其他確實なる擔保	一分八厘以上	二分以上

田中總裁語る

金利引下げ、鮮滿兩行協定消滅ならびに日本國庫金取扱問題について四日田中中銀總裁は左の如く語つた

本行は創業以來數回にわたつて漸次に金利の改定引下げを行ひ來つたが、昨年一月から定期預金の利下げを行ひ、さらに五月に現行の利率に改定した、今回の利下げもまた漸進的に金利の低下を誘導し、滿洲の經濟開發に資せんとする次第である、なほ大興公司も本年一月一日から從來利子がなほ高かつた地方について利下げを實行することになつた、かくして庶民金融、農村金融においても漸次に產業生產資金の低利化が促進されてゆく次第であると思ふ、一昨年締結された滿洲中央銀行、朝鮮銀行との業務協定は昨年十二月をもつて期限到來消滅することゝなつた 兩行間の完全かつ圓滿な諒解が出來て爾後は兩行間に國幣および鮮銀券の等價引換その他唯少し事務的の取極めをやることになつた本年一月一日以降中銀の各店で何時でも所持人の需めに應じ鮮銀券を國幣に無手數料で引換へる、業務上中銀の各店に入つて來た鮮銀券ならびに引換へた鮮銀券は主要店に集めてこれを鮮銀に送付するといふ仕組である なほ本年一月一日から日本國庫金の取扱を直接滿洲中央銀行に委任せらるゝことゝなつた、差當り新京、遼陽、奉天、鐵嶺、安東、哈爾濱、齊々哈爾、錦州、赤峰、承德、海拉爾、牡丹江に事務取扱店を設けて日本銀行代理店の仕事を開始することゝなつた、これは日滿經濟關係の益々緊密を加へつゝある今日極めて妥當なことであつて、事務的にみても兩中央銀行相互間に圓滑なる業務運行が進捗するものと思ふ

日滿各機關 けふ御用始め
昭和十二年へスタート

四日は恒例の御用始、關東軍、大使館、關東局はじめ各官廳銀行、會社、商工會議所、輸入組合、金融組合及び滿洲國官廳等ではそれぞれ新執務時間により擧式した

新京事務局

滿鐵新京事務局の御用始めは四日午前九時三十分より各課別に課長よりそれぞれ課員に對し一場の挨拶があつて各自事務整理をなし午後は隨意休業、五日は新年宴會で休業、六日から普通勤務に復する筈である

新京署御用始

新京署では四日午前九時三十分同署並に鐵警署全員二階講堂に集合猪苗代署長の訓辭あつて御用始めを行つた

首都警察御用始

首都警察廳の御用始は四日午前十時から二階講堂にて擧行、金總監、田中警務科長より廳員一同に對し年頭に際し特にその最後的準備期たる治法撤廢前年度に於ける警察官の覺悟を訓示、同十一時三十分終了した

新京神社元始祭

新京神社の元始祭は三日午前十時から神殿に於て森嚴裡に執行された、定刻官公衙代表中野總領事代理、鯉沼氏子總代長代理以下各氏子總代、在鄕軍人聯合分會代表岩坂副會長等禮裝に威儀を正して所定の位置に着席すれば神職の修祓あり植村神官恭しく開扉、獻饌の後祝詞奏上、氏子總代長以下順次玉串を奉奠し閉扉撤饌の順序で閉式した

新京取引所初立會 四錢安で寄付
大豆出來高二百九十四車

新京取引所の初立會は四日午前九時四十五分から開始され十二時前場のみで終了したが大豆は大納會一月限六圓五十四錢にて大引けしたる後、軍需インフレにて春高が見越されてゐたにも拘はらず休會中內地一般相場の弱材料並びに反動を入れて蓋開け弱氣の一月限六圓九十錢と四錢安に寄付、大引けは八十八錢と漸落した、出來高二百九十四車

日比野司令官 九日歸任

舊臘上京した駐滿海軍部司令官日比野正治中將は東京で越年九日歸任の豫定である

擴充、强化を要する 滿洲の航空事業

滿洲飛行協會會長 大橋忠一

今や日滿兩國は南に支那、北にソ聯の脅威を受け國防交通產業の充實發展のため全智全能をかたむけ盡す必要に迫られてゐる、國防の第一は擧國一致して國難に殉ずるといふ精神的氣魄の長養であるが、第二には物質的に國防資源の開發、交通網の完成、武力の擴充强化を必要とする事勿論である、航空機はこの物的國防上近來俄然その重要の程度を加へ、殊に最近飛行機の航續力、搭載力および速力の增大とゝもに海上においても陸上においても緒戰において制空權を獲得せるものが戰爭の結果を左右するに至つたことは最近アビシニヤ問題を繞る英伊の抗爭において優勢なるイタリーの空軍は地中海に集結せる英國の大艦隊ならびに英國の工業都市の爆擊をもつて脅威し、イタリーが戰はずして英國を屈服せしめたる事實およびドイツが强大なる空軍を背景としてラインランド出兵を斷行した事實によつても明かである、從つていまや各國とも、空軍勢力の充實發展に向つて全力を傾け上海事件當時零に近い空軍しか持たなかつた南京政府は最近においては七百臺の優秀なる飛行機をもつに至り、ソ聯においては現在四千臺のものを數年後には二萬臺に達し、操縱士の如きも五萬人に增加せんとしてゐるといはれてゐる 獨佛伊英米の諸國もこれに劣らざる空軍の擴張計畫を實行しつゝあり、日滿兩國に於ても同樣なり、飛行機は軍事的のみならず、平時の交通機關としても益々重きを加へ、現在の如き速度をもつて發展すれば、今後十年後において旅客および郵便物の長距離輸送は全部飛行機によつて行はれるものと思はれる、現に一萬數千キロの香港、桑港間が五六日にて飛行することが出來

その使用機として現在は十二人乘なるも、今シャトルのボーイング飛行會社に於て製造中の飛行艇が完成の曉には五十人乘時速二百廿哩の巨大なる飛行艇が太平洋を橫斷することになり、しかもその上昇力において必要あれば、五千米以上にも容易に達し得るものであるから、ラヂオ・ビーコンの發達とともに、恐らく將來の太平洋橫斷は全部飛行機によつて行はれることになるであらう 大西洋の橫斷飛行も目下英國のインピリアル・エアウエイズによつて計畫中で、その實現も間もないことゝ聞いてゐる、倫敦から香港およびオーストラリヤまでの長距離飛行はすでにインピリアル・エアウエイズによつて實行されてをり、パリ河內間の航空運輸もエア・フランス(フランス航空會社)において行はれてゐる、獨逸はまたそのユンカー機を利用して現在の歐亞航空公司の上海、西安、蘭州の航空路を靑海より新疆の南部パミール高原を飛越え、アフガニスタンのカブールを經由しベルリンと連絡せんとしてゐる、ソ聯はまた莫斯科よりシベリア經由、ベーリング海峽を橫斷し北米の太平洋岸と結ぶ航空路を計畫中である、かくの如く世界の將來は正に空中にありと言ふべき時期において日滿兩國の有識者は宜しく萬障を差繰つて今日歐米のそれに比し非常に遲れてゐるわが航空事業の發達に努力すべきである

わが滿洲では昨年財團法人滿洲飛行協會成立し今後航空事業發達のため全力を捧ぐる所存である、滿洲は廣漠たる平野を持つ大陸であるから氣流は良く、距離は大であつて航空事業發展のためには絕好の條件を具へてゐるのみならず同樣の條件を具へてゐる北支內蒙と接續し無限のポシビリティを持つた土地であるから われわれは先づ操縱士養成の意味において、多數のグライダーの普及をはかりパラシュート降下術養成のためにパラシュート降下塔を建設し、進んで飛行機操縱術をも敎授せんとしてゐる 更に計畫としては現在の國民奬券に倣ひ、航空奬勵の富籤を發行して資金を集め、滿洲における使用機を世界最良の飛行機に改變し、さらにラヂオ・ビーコンを完備して雲の上、嵐の上を自由に盲目飛行の出來るやうに設備したいと思つてゐる、苟くも國家國防に關心を持たるゝ諸君は、當協會のメンバーとなり、當協會の事業を賛襄されたいものである、敢て江湖に訴ふる所以である

その日〱

□ 畏き邊りでの政治始の御儀、新議事堂での御用始、昭和十二年の第一步は踏み出された

□ 康德四年の、新しい標準時による御用始も特別な印象でとり行はれた

□ 新春、東洋には表面に事も無く、ただ默して緊張した呼吸づかひは感ぜられる

□ 亂鬪スペインをめぐつてのニュースが年頭を多彩にいろどるものであらう

□ 獨逸が今度は商船を押へ、イタリー兵五千上陸すとの報もあり、西部戰線異狀がある

歌はぬ樂譜 (二十四)

山中峯太郎　水門讓二畫

小廣告(二)

每日のやうに、訪ねて來る藤岡宏……。

俊子は、思はず顏を赤らめた。けれど伯母の顏を見つめながら自分のほてつてる顏をかすかに橫に振つた。

伯母は、深く考へるやうな目色になつて、

『さうかねえ』

さ、さゝやくと、

『わたしは、おまへに、極いゝ似合ひの人だと、前から思つてるんだけれどね』

俊子は、目をふせた。

――極いゝ人、お坊ちやん育ちの、いかにも朗かに、けれど、あの朗かなうちに、はずみのこころがあるのを、伯母さんは、まだ氣がつかずにゐて。

俊子は、さう思はずにゐられない、

――崖に立てる女性。

箱根の暗い庭さきの豫感を、この時も思ひ出した。

――どんなに相手の人を、よく理解してゝも、結婚は女にとつて崖を飛び下りるやうなものぢやないかしら?

俊子は、宏を否みきるまでに、嫌ひでは決してなかつた、小さい時からの友だちであり、性格も氣ごゝろも、充分に知つてはゐながら。けれども、

――結婚を?」

それを、自分から熱望するまでには、まだ宏を愛してゐない。これが、俊子のハッキリと自覺してる氣もちだつた

――きらひではないけれど、情熱をもつて愛してはゐない

さう思ひ、この自分を守つて、『處女の誇り』を、心に高くかゝげてゐたいのだつた。

――かうした自覺、きらひでなくても愛してはゐない。この氣もちが、ハッキリしてゐながら、いつまで續けられるだらう?

自分の心の奧を、深く〱さぐつて見ると、俊子は、人知れず顏をあかくせずにゐられないのだつた。

今にも崩れさうな、情熱の衝動におそはれる自分だつたら? それが、時々ではあつても……。

廊下に、スリッパの足音が聞えて、宏が入つて來た。

『俊子さん!あなたの小廣告を社へ賴んで來たよ。あすの朝刊にいゝ場所へ、上の方へ出る』

『さう、有難うございました……』

俊子は、自分ながら堅苦しい禮儀を言つた。

『ハ、ヽ、ずゐぶん無理を言つて、賴んだのさ』

『ほんたうに、お手數をかけまして。藤岡さんですから、そんなやうに新聞社でも、承知して下すつたんでせうね』

伯母が、感心したやうに、さう言ふと、

『そんなことが、幾ら自分のゐる社でも、あるもんですか。だが、俊子さん、明日の廣告の結果は、僕に、知らしてくださいね。何だか興味があるからなア、岡澄江つて、最近のプリマドンナだつたもの』

『結果は、お知らせしますわ……』

『では、これでお暇しやう。疲れてるんだから、早くおやすみなさい。伯母さんによろしく!また伺ひます』

颯爽といつた容子で、宏は伯母が引きとめるのもきかずに、笑ひながら玄關へ出て行つた。

俊子は、伯母と一緒に、見送つて出ると、エナメルの靴をはいた宏が、手を振つて見せながら、生き〱と門へ出て行つた。

この夜、俊子は、疲れてゐながら、どうしても眠れなかつた。

夜あけごろになつて、まどろみかけた、そこへ、

『ごめんくださいまし。お電報がまゐりましたから』

女中の聲に、俊子は目をさました。枕もとのスタンドをつけて、胸さわぎのうちに、その電報用紙を受け取つて、ひらいて見ると、

スミエシス

たゞ五字の、箱根からの電報だつた。

俊子は、ハッと起き上るとその電報用紙を持つて泣きくづれた。

さすが國都の玄關 鰻上りの乘降客
昨年に比し千百八十三名增加
明朗譜はこゝにも

さすが國都の玄關口だけに正月三日間の列車乘降旅客數はいつもと變りなく大禮服の文武官を始め年始廻りのお客で各列車とも滿員の盛況、元旦の乘客が二千七百卅六名、降車客が二千三百一名で前年元旦より乘降客合せて一千百八十三名增加、二日は乘客二千七百七十四名、降車客二千四百六十四名、三日の乘客二千五百三十五名、降車客三千二百三十二名でいづれも前年より多少增加してゐる

詐欺、橫領、氏名詐稱 その上が色魔
惡運盡き新京署員に捕はる

原籍茨城縣眞壁郡村田村大字吉間助川定（二十六）は奉天の大和銀號に一緒に働いてゐた谷村タズエ（三十）を唆かして手をとつて昨年六月來京し九鬼株店に涼しい顏で働いてゐたが遊蕩癖で長居も出來ず入舟町の株や荒木喜多雄氏方に助川順定と

僞名 して轉じ忽ち荒木氏の新京銀行の小切手と印鑑を盜み三千五百四十圓の小切手二枚を造りまた富士木材の株券十枚五百圓を窃取し三笠町三笠下宿屋にそれを預け安心させて下宿し一文も宿料を拂はず四十圓の食料間代を踏倒し前記株券を金にかへて來てやると株券をもつたまゝ逃走朝日通り朝日閣に至り近藤利治と稱し三笠下宿屋と同樣手段で五十四圓を踏倒し逃走その頃奉天に居る時七十餘圓を捲き上げた女カツヲがダイヤ街プランタンにゐたのでうまく口說き落し自分も坪ノ松良十郎と僞名して一ケ月餘同カフエーに働く內同店の女給ツヤコ、ミサホにクリスマス券を賣つてやると稱して四枚詐欺橫領して遊興に消費してゐたが此の間勝又洋服店から九十餘圓の洋服を造り四十餘圓を支拂ひ橫田洋服店から六十餘圓のオーバーを何れも大川と稱して造り不拂のまゝ逃げ隱れ惡辣の限りをつくした外谷村タズエ（三十）プランタンのカツラサロン富士の京子（二十五）と甘言を弄し毒牙を研いで金をしぼり貞操を奪つては捨て現在ではミス東洋の昇に血道を擧げてゐたが兼て新京署で手配中のところ三日厚顏にも醉歩漫々何知らぬ顏でプランタンに來たところを谷本、岩田兩刑事に

逮捕 された僞名、詐欺・橫領、その上色魔と惡事を重ねけろりとしてゐるのには刑事連も一驚してゐる

萬引捕はる

千葉縣安房郡鴨井町坂本仙太郎（三十三）は昨年六月飄然と來滿したが御定まり職もなく金もなく剩へモヒを覺えきつい中毒となり萬引、コソ盜をしては僅かなモヒを吸つて露命を繼けて來たが三十一日午後九時頃雜沓してゐる百貨店、金泰洋行で兵子帶其の他を萬引し三笠町で成松刑事に押へられた

酒も醒める

長春街北胡同電業公司獨身宿舍白楊寮ではお正月とばかり酒と唄の大賑ひのあと、それ繰り出せとばかりに一杯氣嫌で出かけ午前三時頃橫山正利君が部屋に歸つて見ると入口の南京錠が破壞してゐるのでおやつと思ひ机の引出しを調べてびつくり、預つて保管した公金千百二十八圓が何者かに竊取されてゐるので眞青になつて領警署へ屆け出た

正月ですもの

大和通りミツヤ菓子店店員廣田又吉（二十五）は二日夜同僚二人とカフエー238で羽を伸ばしメートルが上り過ぎて亂暴するので誰れにも相手にされず十一時半頃金を拂はずに歸ると云ひ出し啖呵をきるので一杯氣嫌の女給連や從業員こいつ生意氣なりと外へ引張り出し打つ蹴る散々な目にあはせた所を新京署のこわいおぢさんに見つけられ兩方一緒に御目玉を貰ひ醉もさめて互にあやまりけりがついた

◇……書き初め

丑年生れの日滿名士月旦（中）
多士濟々我が世の春を謳ふ

▲國都建設局長鄭禹氏（四十九歲）氏は建國の元勳鄭孝胥氏の息子さんである、福建省に生れ年少にして日本に學び東京成城學校を卒業更に英國に遊學、宣統三年リバプール大學を卒業し、歸國後は實業界の人となり、京華印刷局副經理、東記印刷所經理、上海啓新洋灰公司、南部批發所經理等を經て民國十九年上海華豐搪瓷公司常務董事となつたが、滿洲事變勃發するや全部を放擲して來滿、大同元年長兄鄭垂氏逝去の後を襲つて國務總理秘書官に就任父總理を輔けて建國に功勞があつた、康德三年六月の異動に際し國都建設局長に拔擢され今日に至つてゐる、氏は親讓りの謹嚴寡默の好紳士で、引退せる父君の政治的生命の延長とみられ其將來には多大の期待が拂はれてゐる

▲第五軍管區司令官王靜修（六十一才）日本陸軍士官學校卒業後保定軍官學校教官に任じ累進して第七師長黑龍江省國防警備參謀長となる、滿洲建國と同時に軍政部入をなし次長の要職に就任、軍政改革の際第五軍管區司令官に轉じたものであるが、滿洲事變後建國に盡瘁し又軍政部に在つて建軍に努力した氏の業績は顯著である

▲警總需品局需品處長小泉三郎氏（四十九才）氏は陸軍畑の人である茨城縣に生れ、明治四十三年陸軍經理學校卒業、任官後累進して陸軍三等主計正となり滿洲國入りするために現役を退き、大同二年六月隈元氏の後を襲つて國務院需品處長となり、滿洲國の臺所の長として縱橫に腕を振つた、康德二年十一月同處が昇格して警需品局となるや現職に就任したものである

▲三江省長金名世氏（四十九才）氏は奉天省興京縣にうぶ聲を上げた生粹の滿洲つ子で民國九年北京法政大學を卒へ、官界に入り汪淸縣々長吉林省秘書官を經て哈爾濱電業局總辦となり滿洲國立の聲起るや煕洽氏の傘下に馳せて挺身大業の成就に盡瘁し、建國後吉林省警務廳長に就任省內の治安維持確保に功績を現はし、康德元年十二月新省制度布かれると共に選ばれて初代三江省長に就任、現在省民の信望を一身に集めてゐる

▲興安東省長額勒春氏（六十一才）東布特哈正百旗の由緒正しき家に生れた額勒春氏は、長じて軍人となり、光緒廿七年には黑龍江軍隊前後督辦公署諮議、ついで東布特哈總營となつたが、滿洲國成るや興安東省々長に就任、康德元年新制度下の長官となり今日に至る、官等は簡任一等である

▲專賣總署長姜恩之氏（四十九才）氏は吉林省出身の生粹の滿洲つ子で、民國八年北平朝陽大學を卒業、同廿年鄉里樺甸縣の縣長となつたが、滿洲事變では煕洽氏を補けて獨立運動に參加、建國と共に滿洲國入りをなし、大同二年一月專賣總署が設置されるや初代署長に任ぜられた、副署長の難波氏とは一まはり違ひの丑年である

▲國道局第二技術處長本間德雄氏（四十九才）氏は新潟縣の生れ、大正四年東京帝大工科を卒業するや直ちに官界に入り朝鮮總督府技手を振出しに多年土木方面を擔當、後內務省技師三等二級に昇進、大同二年三月國道局創設と共に招かれて第一技術處長となり更に第二技術處長に轉じその卓越した專門的智識と豐富な經驗をもつて初期における滿洲國の治水計畫樹立に當つてゐる、現在官等は簡任一等である

▲國道局新京建設處長原口忠次郎氏（四十九才）氏は佐賀縣の人、大正五年京都帝大工科を卒業、內務省土木技師として土木事業に深い經驗を積み三等四級に昇進、大同二年五月招かれて國道局新京建設處長に就任、第一次五ケ年計畫國道一萬キロ建設に參劃して功勞あり、更に第二次五ケ年計畫の遂行に盡力してゐる、簡任二等である

▲專賣總署副署長難波經一氏（卅七歲）若冠三十六歲にして早くも簡任官となり、同輩の羨望を一身にあつめた難波經一氏は建國直後大藏省より撰ばれて滿洲國入りせる秀才組の一人である 同氏は戰國時代の一城の主を思はせるやうな魁偉な容貌の持主だが、非常な人情家で友人にも部下にも敬慕され、殊にスポーツ仲間ではラグビーチームの育ての親として野球の古海氏とゝもに押しも押されもせぬ親分株である、同氏が今日のやうにトントン拍子で出世したのは專賣制度確立による功績が認められたものであることは勿論だが、一面にはこの人間難波の持つ人德も預つて力あつたといはれてゐる 氏は大正十三年東京帝大法科在學中高文試驗に合格、卒業と同時に大藏省に入り稅務監督局屬を振出しに稅務事務官、司稅官等を歷任し、大同元年聘せられて滿洲國入りをなし翌二年一月專賣總署設置とゝもに現職に就任した 政府專賣機關などゝいふものは役所の中でも最も地味な仕事で制度並に運用の効果が實際に現れて來るまでには相當永い歲月がかゝり所謂「牛の歩み」の堅實性が必要だといはれてゐるが奇しくもわが難波氏は丑歲しかも今年は當り年を迎へていよいよ持前の堅實性と頑健さを發揮しその雜事業の完成に邁進する事であらう

時差撤廢の齎す利害得失檢討
＝中央觀象臺發表＝

各方面に大きな波紋を投げかけた日滿時差撤廢が愈よ元旦を期して實施され、こゝにも新しい年のスタートが切られたが、「一時間繰上げ」に對し中央觀象臺では左の如く發表した

現在 世界主要國では殆ど總て平均太陽時を採用してゐる、例へば英國では世界經度の基點であるロンドン市外のグリニチ天文台で「平均太陽」が南中する時刻を基準とした經度零度子午線の平均太陽時を標準とし、獨逸では東經十五度の子午線の平均太陽時を用ひてゐる、然して滿洲國では東經百二十度子午線の平均太陽時を用ひてゐるので英國グリニチとは八時間の差があり又日本では百三十五度の子午線の平均太陽時を用ひてゐるから英國のそれより九時間の差がある、即ちグリニチで正午の時は滿洲では午後八時、日本では九時である、次に今回の標準時を改めて日本と同一の百三十五度のものとするもので滿洲國政府では今年八月六日勅令を以て「一般東經百三十五度の子午線の平均太陽時を以て國內一般の標準時と定む」と發表しその實施期日が元旦と決定したのである、滿洲國標準時は建國以前に於ては中華民國政府、日本、ソ聯の規定する標準時が行はれて居た時代があり、日本側のものは關東州及滿鐵附屬地で專ら實施されたもので東經百二十度の子午線を基準としたもの、中華民國では東經百二十七度三十分を、ソ聯側では北鐵沿線各地で哈爾賓の經度に依るもので現在の滿洲標準時とは廿六分餘の時刻の差があつた、また今度の標準時變更のために滿洲住民の受ける便利な點は次の通りである

第一 としては、今度の標準時は滿洲の東端を橫切る東經百三十五度の子午線を基準としてゐるので、從來の百二十度子午線が滿洲中部の主要都市よりも遙かに西方に偏し公私生活の活動開始及び停止時刻が日出沒の時刻に比して遲過ぎるに反し、基準子午線が東に偏する場合には開始及停止の時刻が日出、日沒に比し早くなり、滿洲國の百三十五度子午線時刻を採用するは極めて進取的な改革である

第二 には電信電話等通信事業の從事者に多大の便宜がもたらされ、更に一時間の差を犯罪に惡用した實例は今後根絕

第三 交通に關しては一層便利になつたことで滿洲から外國への旅行者は改正に依り山海關で時計を一時間遲らす代りに安東、新義州、滿洲里を通過する場合には全然時刻の變更は不要となり只黑河、綏芬河等滿洲東部からソ聯に入る際にのみ時計を進めれば宜いことゝなつた

第四 の利點としては「サンマータイム」に關する點で今回の變更に依り時刻が一時間繰上げられた故「サンマータイム」採用目的の一部が達せられたわけである

滿鐵社員會の對抗氷滑大會
廿四日撫順で擧行

滿鐵社員會聯合會では嚴寒征服神身鍛練の目的から二十四日午前九時から撫順永安台リンクに於て第一回全滿聯合會對抗氷滑大會を開催することゝなつた▲種目及選手はA＝ホッケー（選手六人交代者四人以內）B＝三十才以上千六百米リレー（選手四人補欠二人以內）C＝二十九才以下千六百米リレー（同上）D＝千五百米團體レース（選手四人：卅才以上二人二十九才以下二人補欠各二名以內）▲採點方法リレータイムにより等級を決す、千五百米タイムにより順位を定めそのチーム四人の成績のトータルによる▲入賞各種目共三等迄とし一等には夫々左の通り優勝盃を授與す、ホッケー總裁盃、千五百米團體リレー副總裁盃、二十九才以下リレー常任幹事盃・三十才以上リレー體育部盃・なほ別に千五百米團體レースには個人賞として五等迄賞品を授與す▲競技規程大日本スケート競技聯盟規程に準ず▲出場資格社員會々員とす

取引所信託
取引人五氏を表彰

新京取引所信託會社では四日初立會終了後午後零時十分から同所樓上にて昨年中最も取引高多かつた左記五軒に對する表彰式を擧行記念品を贈呈した

一等、永成功（八千八十六車）
二等、泰和源（七千五十四車）
三等、佐藤商會（六千八百八十六車）
四等、祐昌盛（六千八百三十四車）
五等、日新昌（五千九百五十四車）

明けて十九の大和撫子
パリ訪問飛行に

【東京國通】豪勇ジャピーですら挫折したパリー東京間飛行をその逆コースをとつて鵬程一萬七千キロ、花のパリを空から訪れようと計畫を進めてゐる雄々しいお孃さんがあらはれた、そのお孃さんとは風月堂專務久岡氏の長女ひで子さんで昨年府立第六高女を卒業、やつと十九の春を迎へたばかりの花恥かしい乙女だ飛行機は羽田の日本飛行學校で二年前から始めて昨年十月立派に二等飛行士の免狀をとり、目下は高等飛行練習中といふ腕前、この秋までにはお父さんに買つてもらふ筈の性能のよい輕飛行機で歐亞の空を天翔けてパリに舞降りマダムやマドモアゼルの碧い眼を白黒させやうといふので松の內の三日、麻布の自宅にひで子さんを訪れると豫想に反して凡男婦らしくない花のやうに美しいお孃さんが恥かしさうに語る

あちらから來るばかりで日本から一寸も行かないなんて殘念なことですもの是非やつてみたいと思ひます、そのためにはみつちり練習したいと思ひます、飛行機は皆樣がお考へになるほど怖ろしいものではございませんわ

石碑嶺送信所に怪盜侵入す
小谷水兵奮戰して重傷

四日午前十一時廿分頃駐滿海軍部新京石碑嶺新設送信所裏口から身長五尺三、三寸の滿人らしき賊が忍び込んだ異樣な物音に折柄警戒中の京都市左京區田中馬場町出身小谷橘三郎三等水兵（二三）が誰何したところ「膠を出すと、殺すぞ、○○を出せ」と日本語で叫びながら銃器を突きつけたが小谷水兵はひるまず飛掛つたゝめ左腹部に貫通銃創を負つたがひるまず追跡したので賊は一物をも得ず逃走せんとしたので、背後から四五發拳銃を發射したが、遂に重傷のためそのまゝ昏倒した、事件が勃發した急報に接し駐滿海軍副官がはせ付け小谷水兵を取調べたところ、銃器を心配しながら再び昏倒したので直ちに陸軍病院に入院加療中である、因みに侵入の賊は同送信所を熟知せるものらしく、目下その方面の關係者を取調中である

右につき駐滿海軍部林副官は語る

四日午後一時二十分頃の事件で小谷三等水兵は身に貫通銃創の重傷を負ひ昏倒しながら勇敢にもなほ二發程發射したことは殘念であつた、直ちに陸軍病院に入院手當中であるが軍醫の語る所によると痕は拳銃の彈らしく只今のところ餘病を併發しない限り生命はとりとめるらしい、元氣も大分恢復したといふからやつと安心した、正月早々いろいろお騷がせして申わけない

三中井ニッケ 四日初賣り

大同大街に偉容を誇る三中井ニッケの兩百貨店は四日午前十時からそれぞれ初賣りを開始し一割引のサービスを行つた

青年學校寒稽古

新京青年學校では四日午前七時から武道寒稽古を開始した期間は來る十日までの一週間今年は特に非常時に鑑み猛練習を行ひ校外有志の參加を大に歡迎するさうである

連副總監墓參

連副總監は墓參のため二日大阪に歸鄉したが十二、三日頃歸任の豫定

あす（五日）

▲新年宴會
▲ミス・ワカナ一行公演、午後五時公會堂

※…今晚の主なる演藝放送…※

▲七・三〇獅子神樂（名古屋）三重縣一宮有志▲七・五五常磐津「釣女」（東京）常磐津松尾太夫外▲八・二五ヴァイオリン獨奏（東京）安藤幸子外▲八・五〇歌謠物語「其の前夜」（東京）江戸川蘭子

落語　牛の春

入船亭扇稿　京若家柿・繪

本年は丑年でございまして、その干支にちなみ、牛のおはなしを致します「與太郎、こゝへ來な」「なんだえ阿父つさん」「馬鹿だな此奴は、立つてゐる奴があるかそれへ座れ、お前の樣な馬鹿な者には女房になる者がないぞ」「女房になる者がなければ、お屋敷にゐる姉さんを女房にするよ」「馬鹿野郎、弟姉で夫婦になれば、畜生だと言はれるぞ」「うまく言ふな、お前なぞは親同志で夫婦になつてゐる」「こまつた奴だな、時に與太郎今度伯父さんが新しく家を建てたからその喜にゆけ」「ヘエー何と言ふのだえ」「敎へてやるからよく覺えてをけ、先づ伯父さんに會つたときに、ていねいにお辭儀をする、よく俺のすることを見てをけ、兩手を重ねて頭をさげて、先日は親父が参りましていろいろ御馳走になりまして有難いことでございます、今日は新宅のお祝として手前までお招き下さいまして有難いことにございます」「誰がそんなことを言ふンだ」「お前が言ふのだ、言葉使ひはていねいにしろ先づ禮を言つて、それから家を褒めるンだ、近頃木材が大分高くなりましたが結構な御普請で實におみごとでございます、總體檜造りでございますナ、しかも內地の檜で見れば見る程結構でございます、左右の壁は京都北野の土でしかも砂摺でございます、天井は薩摩の鶉杢でございますな、それにお疊は備後の五分縁でございますな、お庭は織部好みでございますな、それに石は御影でございますか……まあこの位のことを言ふのだ」「ヘエさうかねそれだけを一人で言ふのか」「お前が一人で言ふのだ」「大層長いな、どうだらう阿父さん毎日行つて少しづゝ言はふぢやアないか」「馬鹿ッ、なし崩しに家を褒める奴があるか」「それでもさう長くては一度には言へないよ」「それでは書いてやらう、それを讀んでいへ」「ウムさうさか」「もう一度いふからよく覺へろ、大分檜が使つてありますな、いゝか檜造り」「ウム判つた、大分ヘノキが使つてありますな」「ヘノキではない檜だ、それからこのつぎにいふことは、左右の壁は京都北野の土で砂摺でごさいますなと斯ういふのだ」「ウム判つたよ、佐平のかゝあは引づりでございますな」「何をいふのだ、左右の壁は砂摺でございますなといふのだ」「ヘエさうか、俺はまた佐平のかゝあが引づりかと思つた」「そのつぎは天井は薩摩の鶉杢でございますなといふのだ」「ヘエー天井はさつまいもと、うづらまめか」「馬鹿野郎、そんなものが天井になるか、これは木の名だよ」「さうかね」「この次は疊を褒める、覺えてをけ、疊は備後の五分縁でございますなと言ふのだ」「疊は貧乏のぼろぼろでございます」「さうではない、備後の五分縁だ」「ウムさうか、備後の五分縁でございます」「よくそれを覺えてをけ、それから庭をほめるのだ、伯父さんは普請道樂で、折々家や庭に手入をするが、今度は家から庭も新しくこしらえた、そこでその庭をほめるには、斯う云ふのだ、このお庭は織部好みで石は御影でございますな、どうだ判つたか」「判つたよ、石はみかけ倒しでございます」「馬鹿ッ、石は御影でございます、攝州の御影から出る石だからそこでこれを御影と言ふ、伯父さんの腹をえぐつてやれ」「出双庖丁でえぐるのか」「そんなことをしては大變だ、それはな言葉でえぐるのだ」「ヘエー それは大變だ、言葉はかたちのないものだ、かたちのないものでえぐることは出來ないであらう」

「判らない奴だな、まづこゝだけはよく覺えて置け、それから今度は臺所を褒めるのだ伯父さんは新しい樣式で臺所を拵らへた、それが自慢だからお前をつれて行つてその臺所をみせる、所がこの臺所の正面から左によつた所に大黑柱がある、その柱の上の方にふし穴が明いてゐる、どうしてそれに氣がつかなかつたか、しかし埋木をすると柱がきづ物になる、何とかしてこの節穴をかくしたいものと伯父さんはそれを氣にしてゐる、俺はそれをみた時に斯うすれば宜いと思つたことがあるが、それをお前に言はせるために默つてゐたが、今度はお前が行つてその節穴を見たならば伯父さんこれがお氣に障はるでございませうが、此節穴に秋葉樣の御札を貼つて御覽なさい、お座敷と違ひ臺所ですから秋葉樣のお札を貼りますと節穴もかくれ、それに臺所だけに、第一火の用心もよろしうございますとこう言ふのだこれを聞けば伯父さんが感心して、與太郎宜い事を言つて呉れたとお前を賞めて御褒美をくれる、よく聞いて置け」「判つたよ、穴を見たらは秋葉樣の御札をお貼りなさい、穴もかくれるし火の用心にもなります」「さうだ、それから牛を見せるであらう、牛はな天角地眼一石六斗耳小齒合と言つて、角は天に向ひ眼は地をにらみ毛は黑く耳は小さく齒の合つてゐるのを良いとする」

然しこれはお前にはおぼへられまいが、牛をみたならば立派な牛でございます、結構でございますといへばそれで宜い」「判つた——それでは行つてくるよ」與太郎は着物を着換へて小石川の伯父さんのところへ出て參りました「お伯父さん今日は—お目出度うございます」「オ、與太郎かよく來たナ」「お芽出度うございます、イヤー綺麗に家が出來た、左右の壁は京都北野の土で、然も砂摺でございます」よくそんなことを知つてゐるな」「これには種があるのだ」「何だ種があるとは」「それはこつちのことだ、エーとこれから天井だな、イヤさうで無え、伯父さん近來木材が高くなりましたが、檜造りでございます」「よくそれが判るな」「それは判つてゐるよそれから天井だ、伯父さん天井は薩摩芋に鶉豆、旨からうな」「何をいつてゐるンだ」「まだ褒めるよ、疊は貧乏のほろほろでございますか、イヤさうではない、備後の五分縁……、所でお伯父さん臺所をみせておくんなさい、イヤさうでない、庭を褒めるのを忘れた、お庭は堀部安兵衞で御影石でございます」「妙なことをいふ奴だな、サア臺所をみておくれ」「これがかんじんだ、廣い臺所だな、伯父さんこの大黑柱に節穴がありますが、これには秋葉樣の御札をお貼りなさい、穴がゝくれて火の用心になります」「偉いな、よくそれに氣がついた」「これから牛を褒めますよ」伯父さんに伴れられて牛部屋に來て「眞黑な良い牛だ、褒言葉を忘れた、おやおや、牛が放屁をしたぜ、伯父さんあのお尻に秋葉樣のお札をお貼りなさい、穴がゝくれてへの用心になります」

滿洲における化學工業の將來

滿鐵中央試驗所々長工學博士　丸澤常哉

滿洲における天然資源は其の種類未だ必ずしも多くはないが、其の量においては優に世界的と稱せらるゝもの尠くない、しかしてこれ等資源の工業的開發利用の既往を考へ現狀を觀るに、近年特に滿洲國建國以來炭礦及び製鐵事業の進展とゝもに二、三新興工業の顯著なる發展過程にあるものを認め得るが多くは未だ原始工業の域を脱すること遠からず、近代の化學工業觀よりすればなほ搖籃時代にありといふも敢て過言ではあるまい

例へば滿洲重要產業の一たる油房工業が既往八十年の歷史を經たる今日においても粗工業たる丸粕の製造に止り殆ど進歩の跡を認め難く硫安工業の勃興によりて衰運の一路を辿りつゝあるが如きは其の好例である、これらの中にありて貧鑛處理による製鐵事業油母頁岩工業、硫安工業等の如き在滿技術家の努力によりて完成せられたる重要工業の存する事は吾人の意を强うする所であるが、曹達工業、パルプ工業の如き國策的に重要な事業が最近漸く呱々の聲をあげんとする現狀を考ふる時滿洲國資源の貴重化を眼目とする諸種の化學工業の發展は一に將來を待たねばならぬ、以下二、三の例について述べやう

滿洲における林產資源が纖維工業原料として極めて重要なることは改めていふ必要がない、この他從來家庭燃料乃至雜用に供せられつゝある、高粱稈、大豆莖、棉莖等の如き農業副產物及び野生植物莖(例へば最近問題視せらるゝ蘆の如き)等もパルプの恒久的資源として新しき視野から檢討を要する、これ等の纖維資源はまた其の糖化醱酵による酒精工業の原料として燃料國策的見地からも改めて研究を必要とする

大豆の利用更生の策としては從來の丸粕工業の形態を改め、近代製油工業の範に倣ひ製品の加工々業を加へて一聯の大豆工業の新體系を創造し大豆特異の諸成分の利用に新天地を開拓するとせば其の前途は洋々たるものがあらう

滿洲における鑛產中特殊粘土、菱苦土鑛、硅石等は從來專ら一般窯業原料として利用せられ、未だ粗工業の範圍を脱せざりしも最近或物は輕金屬原料とし、或物は特殊耐火材料として近代的化學工業の技術によりて價値向上の機運を招來しつゝあることは慶賀に堪へざる所である

石炭の貴重化工業の一として其の液化事業が燃料國策の見地から將に企業化の第一歩を踏み出さんとしつゝあるは邦家のため最大慶事である、吾人はこの事業の完成に最善の努力を拂はねばならぬが、この他に化學工業原料としての石炭の廣汎なる利用に着眼し、工業藥品、染料、化學兵器等の製造工業の發展に漸進せねばならぬ

多年の懸案たりし滿洲における曹達工業が漸く設立を見るに至つたことは鹽田の開發增產と相待つて他の化學工業勃興の誘因となるであらう

この他畜產資源としての獸皮、羊毛の類は其の品質において改良の餘地多分に存するが國策的に見て滿洲における重要產業の一たるを失はぬ、これ等は先づ畜產方面の改善が先決の問題である

滿洲における既知資源の利用に關しては向後の研究に待つべきもの多々あること叙上の如し、此の未開發の鑛產資源に至りては未踏の地大部分を占め學術的調査の甚だ僅少なる今日、未だ云々すべきに非ざれど廣漠たる地下に埋藏せらるゝ無限の大寶庫は一に將來の探求開發に持つ所で、地下資源の貧弱を說いて悲觀する如きは早計の極みである

重要產業の勃興に附隨して中小工業の發展助長もまた極めて必要である、この本邦における最大產業都市たる大阪市及び名古屋市における年額十億圓餘に上る工產品の約五割が中小工業の生產にかゝる實例に徵しても自明である、

さらに滿洲國の國家經濟の大本たる農村の經濟を充實せしむるため各農村の實情に鑑み適當なる副業を選擇して指導獎勵に努め農家の收入を增進して生活の向上に資し、もつて王道樂土の實を擧ぐべく、これがためには治安の維持並に交通機關の整備が最緊急事である

要之滿洲の工業發展は既知資源のより良き利用と未知資源の探求開發とによりて眞に國家繁榮の基調をなすものにして今や其の黎明期にあると信ずる、この際日滿不可分の見地から内地及び朝鮮と相剋を避け日鮮を一體として企業の採擇、原料及び製品の關稅及び販路等の諸問題について愼重細心なる檢討を加へ完全なる統制の下に圓滿健全なる發達を遂げねばならぬ、これがためには事業家も技術家も經營者も先づ私心を脱して國家的見地から最善を盡すべきである

畜產上より見たる 滿洲國產の牛

近年日本への輸出行はる

東亞畜產の寶庫は滿洲國であるとは冷く人口に膾炙されてゐるところである、就中蒙古人は生活の基本を牧畜に置き家畜をもつて其の伴侶としこれを牧するをもつて人生最大の能事と信じてゐる、しかも蒙古は滿洲國における唯一の家畜資源地である、以下蒙古系牛を中心とし、全滿における畜牛の分布狀態ならびに其の流通部門の一班について考察して見る

滿洲國における牛の產地は東部地方及び西部地方に多く南北滿洲の中部をなす平原地帶は反つて其の分布が稀薄である、即ち東部地方では安東省及び奉天、吉林兩省の東部山岳地帶(主として長白山脈地帶)であり、西部地方においては西方蒙古地方即ち興安熱河兩省及び奉天、龍江省管内の蒙古開放地方である

換言せば滿洲東部の山岳地帶では牛をもつて專ら農耕役畜にあて、西方蒙旗地帶においては牛を役用する以外さらに乳用に供してゐるからであるこれに加ふるにこれ等の地方にはいづれも放牧地があり其の面積も廣大であるが、滿洲國の中央部即ち平原地帶では農耕用役畜として馬、騾、驢等を多く使用し、牛を使役することは概して少い、これを要するに蒙古人は牛を乳用とし或は役用とし最後に肉用に供してゐるが、滿洲國人は肉用或は輓用又は農耕に使役し、乳用としてこれを飼育するものは甚だ稀である

滿洲國產の牛の種類は大體これを滿洲牛と蒙古牛の二種に分けられるが大部分は蒙古牛である、しかして前者は東部山岳地帶に產し後者は西部蒙古地帶に多い、尤も稀に雜種はあるが、然し其の大牛は支那種即ち印度種であつて餘り良種でない、一說には東部は朝鮮系に屬し、南部は山東系に、北部及び西部は蒙古系に屬すといはれてゐるが、必ずしも當つてゐない

滿洲牛は一般に所謂蒙古牛の血液を含むこと多く、また朝鮮系のものも亦少くない、一面また山東牛の血液も混交し、其の他少數のエシャ・ホルスタン等の洋牛及び彼等の雜然たる混血種より成立し、形態においても頗る亂れてゐる、しかし蒙古牛は少くとも二種に區分することが出來る、一つは有角種であり、一つは無角種である、形態學上、遺傳學上各血液が固定して一品種を形成してゐる

これを要するに蒙古牛は一種固定の形態を認め得るが、これに反し滿洲牛は上述の如く混血雜然とし形態も亦亂雜である

蒙古牛及び滿洲牛は共に晩熟で毛色、體型、體軀の大さが何れも略々同樣である、體型は頭が比較的大で頸薄く肋骨が偏平である、それに胸狹く且つ深く、胴は稍長く背、腰尻等の幅狹く臀は概ね後の方に傾斜し平均的にも日本牛に比べ倭小である

從つて役畜としては輓曳力が遲弱であり、肉用としても肥滿性に缺け、枝肉量及び肉量少く且つ肉は脂肪に缺乏し風味も概して惡い

殊に牝牛に比し役肉兩用共極めて劣等である

かくの如く肉牛として之を見る場合においても適當であるといはれないのである、即ち生肉として食用する時筋間脂肪の夾雜するもの少く從つて上述の如く味も劣る

しかしながら生體量に對する精肉量の比率は反つて大であるので、これを肉加工用殊に罐詰肉として採用する場合においては前述の如き缺點は毫も支障がないのである

他面滿洲の牛肉は適當な肥育を行ふにおいては日本の需要に適するので品種の改良と相俟つて將來は日本への供給に重要な地位を占め得るものと思はれる

惟ふに滿洲國の牛肉が、日本の食糧問題に重大な關係あることは日本における其の消費量六八〇〇萬斤に對し國內產四三〇〇萬斤に過ぎず結局二五〇〇萬斤は輸移入によつて補給せられてゐる現狀である、わが國へ輸入する牛肉は主として山東產牛(青島肉)であるが近年滿洲國からも輸入され、其の將來が約束されてゐる

次に乳用から見た滿洲牛は概して皮膚粗厚であり且つ乳腺の發育不良であるため泌乳量少く乳質もまた劣等である

土建ニュース

決定工事
▲吉林市營屠宰運搬裝置工事　●營繕需品局
落札　六千九百圓也　松澤商會
七、四五〇、〇〇　田中勝商會
七、八〇〇、〇〇　渡部商會

商況欄 (一月四日前場)

海外經濟電報

倫敦銀塊 二一片八分三
同先限 二一片一六分三
紐育銀塊 四五仙四分一
孟買銀塊 五二留比一六分二
米英爲替 四弗九〇分一
米日爲替 二八弗六五仙
米支爲替 二九弗八〇仙
スチール株 七九弗八分一
アナゴンダ 五三弗八分七
英日爲替 一志一片一六分三
英支爲替
日印爲替 七六留比四分三

▲米棉
現物 一三仙〇四
一月限 一二仙四七
三月限 一二仙四四
五月限 一二仙三二
七月限 一二仙二五
十月限 一一仙九〇
十二月限 一一仙九四

▲印棉
ブローチ 二二九留比
オームラ 二〇八留比
ベンゴール 一七七留比

▲市俄古小麥
十二月限 一弗三五仙二分一
五月限 一弗一八仙二分一

▲カルカツタ麻袋
七月限 一弗一五仙四分一
青筋
鐵筋

金銀市況

●上海標金 昨引 一二五四、八〇

爲替相場

▲上海爲替
▲日本向 第一回 賣買 一〇〇四、三七五 一〇〇四、八七五 / 第二回 賣買 〃 〃
▲倫敦向 第一回 賣買 一志二片三二分三 一志二片一六分九 / 第二回 賣買 〃 〃
▲紐育向 第一回 賣買 二九弗一四分三 二九弗一六分三 / 第二回 賣買 〃 〃
▲大連爲替
▲上海向 一〇三、三七五

各地株式市況

▲阪神日米爲替 第一回 二八弗二分一 八五分
▲阪神日英爲替 第二回 一志二片一六分三 〇〇〇

▲東京株式(短期) 寄付 高値
東新 一三三、九〇
鐘新 二〇三、一〇
滿鐵 七七、〇〇
大新

▲大阪株式(短期) 寄 引
大新 八二、八〇
東新 一三三、五〇
鐘新 二〇三、〇〇
日產 八〇、一〇
日魯 六六、九〇

▲大連株式(短期) 寄 引
五品 一五、八〇
豆新 二二、四〇
錢鈔 [illegible]
東新 一三三、〇〇
滿鐵 五〇、五〇
二新 [illegible]
日產 七七、一〇
鐘新 二二、五〇

▲奉天株式(短期) 寄 引
滿取 一三三、〇〇
東新 一三三、五〇
大新 八二、九〇
日產 七九、六〇
五品 一六、一〇
豆新 二二、〇〇
鐘新 二〇三、〇〇
滿毛 二一、〇〇
優先 二三、一〇
滿鐵 六〇、五〇
同新 四八、五〇
電甲 [illegible]
同乙 [illegible]
東拓 [illegible]
滿興 [illegible]
日魯 [illegible]
東亞 [illegible]

各地商品市況

▲大阪棉糸 寄付 大引
一月限 二六一、〇〇 二六三、七〇
二月限 二五七、〇〇 二六〇、五〇
三月限 二五四、七〇 二五七、〇〇
四月限 二五三、一〇 二五四、八〇
五月限 二五一、七〇 二五一、七〇
六月限 二五〇、八〇 二五〇、七〇
七月限 二四九、八〇 二五〇、〇〇

▲大阪棉花
當限 七一、五〇 七〇、七〇
先限 七二、五〇 七二、〇〇

▲大阪人絹
當限 八四、〇〇 —
先限 八四、〇〇 —

各地特產市況

▲大連大豆 寄付 大引
袋入 七、六四 七、六七
一月限 七、六九 七、六六
二月限 七、七〇 七、七一
三月限 七、七〇 七、七四
四月限 七、八〇 七、七七
五月限 — —
三等現物 七、五〇 七、五三

●同豆粕
現物 二、三三〇 二、三三五
一月限 二、三六〇 二、三四〇
二月限 二、三六五 二、三五五
三月限 二、三九〇 二、三五五
四月限 二、三三〇 二、三三〇

●同豆油
現物 三五、三五 三五、六〇
一月限 三五、四〇 三五、四〇
二月限 三五、三五 三五、一五
三月限 — —
四月限 — —

新京取引所市況 (一月四日前場)(一石値段)

現物 寄 引 出來高
大豆 — — —
高粱 — — —
小豆 — — —
玉蜀黍 — — —
包米 — — —
●大豆
十二月限 六、九〇 六、八八 二五四車
一月限 六、九二 六、九二 一二三車
二月 — — —
●高粱
十二月限 — — —
一月限 四、五〇 — 車
二月限 四、五〇 — 三車

(運勢)

舊十一月廿三日　一月五日
火曜　壬辰　先負　定　翼宿

●一白の人　人に知れざる苦みの潜み居る日進むには凶　辛と壬と癸が吉
●二黑の人　何事も捗りがたき日撓まず努力するが吉し　乙と丁と壬が吉
●三碧の人　午前中物事手控へすれば午後は吉となる日　庚と辛と壬が吉
●四綠の人　刻々に吉運には向へども斷油の出來ざる日　庚と辛と丑が吉
●五黃の人　焦りても其甲斐薄し冗費と失物注意すべし　甲と丙と壬が吉
●六白の人　好機到來の吉日にて何事にても進むが勝利　丙と丁と申が吉
●七赤の人　十分に手腕を揮ひ得らるゝ幸運盛大の吉日　丁と申と丑が吉
●八白の人　龜裂小なりとて決して油斷のならぬ日なり　乙と丁と申が吉
●九紫の人　和合さへ注意せば無二の幸運日となるべし　甲と辛と戌が吉